

病害虫の適期防除で 健全なさとうきびを生産しよう



社団法人沖縄県糖業振興協会
沖縄県農業研究センター
沖縄県農業協同組合

■ハリガネムシ

●オキナワカンシャクシコメツキ ●サキシマカンシャクシコメツキ

被害

幼虫がサトウキビの地下芽を集中的に食害するため、植え付けた苗の不発芽、欠株、芯枯れ、また株出し不萌芽の大きな原因となる。1世代に2～3年要する。



成虫



幼虫

防除法

植付け時に、植え溝に粒剤を施用する。また、多発畑では5～6月の生育期に株元に乳剤の土壌かん注を行う。

農薬名	使用量及び希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
T D エ ー ス 粒 剤	9kg/10a	植付時	1回	植溝施用土壌混和
ダイシストン粒剤	6~9kg/10a	植付時	1回	植溝施用土壌混和
トクチオン細粒剤 F	9~15kg/10a	植付時	1回	植溝土壌混和
アドバンテージS粒剤	6~9kg/10a	植付時	1回	植溝処理土壌混和
		培土時		株元処理土壌混和
アドバンテージ粒剤	6~9kg/10a	植付時	1回	植溝処理土壌混和
		培土時		株元処理土壌混和
ブリンズベイト	6~9kg/10a	植付時	1回	植溝処理土壌混和
トクチオン乳剤	1000倍	収穫90日前まで	2回以内	1㎡当り約2L(希釈液)の割合で土壌灌注する
バイジット乳剤	500~1000倍	収穫200日前まで	2回以内	1㎡当り約2L(希釈液)の割合で土壌灌注する
カルホス乳剤	1000倍	夏季生育期まで	3回以内	1㎡当り約1.8L(希釈液)の割合で土壌灌注する

■メイチュウ類

●カンシャシクイハマキ



幼虫が芽や生長点部を加害し、芯枯れをおこす。成茎への加害により二次的に赤腐病が発生し、糖度低下の大きな原因となる。年に6～7世代の発生がある。



成虫



幼虫



分げつ期の芯枯れを防止するため、食入初期の幼虫を対象に防除を行う。

農薬名	使用量及び希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
トクチオン細粒剤 F	15kg/10a	生育期、但し収穫90日前まで	2回以内	株元処理土壌混和
アドバンテージS粒剤	6～9kg/10a	植付時	1回	植溝処理土壌混和
		培土時		株元処理土壌混和
アドバンテージ粒剤	6～9kg/10a	植付時	1回	植溝処理土壌混和
		培土時		株元処理土壌混和
スミチオン乳剤	1000倍	収穫45日前まで	4回以内	散布
スミバッサ乳剤	1000倍	収穫45日前まで	4回以内	散布

●イネヨトウ



幼虫が生長点部を好んで加害し、芯枯れをおこす。生育初期の分げつ茎において被害が多い。被害を受けた成茎は台風時に折損し易くなる。年に5～6世代の発生がある。



成虫



幼虫



カンシャシクイハマキに準ずる。

●カンシャコバネナガカメムシ（ガイダー）

被害

成・幼虫が集団で芯葉部や葉鞘内から吸汁加害し、サトウキビの生育を阻害する。被害を受けると葉は黄変し、多数の吸汁痕が形成される。年に3世代の発生を重ねる。



成虫



幼虫(2～3齢期)

防除法

防除は第一世代の若齢幼虫の2.5齢期に行うのが最も効果的である。防除適期は宮古・八重山地区では4月上旬～中旬、沖縄本島では4月下旬から5月上旬。

農薬名	使用量及び希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
スミチオン乳剤	1000倍	収穫45日前まで	4回以内	散布
スミバッサ乳剤	1000倍	収穫45日前まで	4回以内	散布
ダイアジノン乳剤40	800～1000倍	収穫90日前まで	2回以内	散布
スミバッサ粉剤	3～4kg/10a	収穫45日前まで	4回以内	散布
スミチオン粉剤2	3～4kg/10a	収穫45日前まで	4回以内	散布
スミチオン微粒剤F	4～5kg/10a	収穫45日前まで	4回以内	散布

●アオドウガネ・コガネムシ類

被害

幼虫が地下部の茎、芽、根帯を食害し、大規模な立ち枯れの被害を与える。年1世代で、成虫は5～9月に地上に出現する。



成虫



幼虫

防除法

防除は幼虫の1齢～2齢期（宮古・八重山地区は6～7月、沖縄本島では7～8月）に行う。多発地域では4月中旬～7月まで誘殺灯を設置して成虫を防除する。

農薬名	使用量及び希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
アドバンテージS粒剤	9kg/10a	培土時	1回	株元処理土壌混和
アドバンテージ粒剤	6~9kg/10a	植付時 培土時	1回	植溝処理土壌混和 株元処理土壌混和
プリンスベイト	6kg/10a	培土時	1回	株元処理土壌混和
バイジット粒剤	9kg/10a	植付時及び200日前まで	2回以内	作条土壌混和
トクチオン乳剤	1000倍	収穫90日前まで	2回以内	1㎡当り約2L(希釈液)の割合で土壌灌注する
バイジット乳剤	500~1000倍	収穫200日前まで	2回以内	1㎡当り約2L(希釈液)の割合で土壌灌注する
カルホス乳剤	1000倍	夏季生育期まで	3回以内	1㎡当り約1.8L(希釈液)の割合で土壌灌注する

●ケブカアカチャコガネ



幼虫はサトウキビの地下部(茎、芽、根帯)を食害し、収穫を目前にして大規模な立ち枯れの被害を与える。1世代に2年を要し、成虫は2~3月に地上に出現する。



成虫



幼虫

防除法

サトウキビ収穫後すみやかに碎土を行うと、幼虫の約75%を物理的に防除することができる。

●シロスジオサゾウムシ



幼虫は茎の内部を穿孔しながら食害する。被害茎は赤腐症状を呈し、枯死する場合もある。



成虫



幼虫

防除法

被害畑から採苗しない。収穫後の被害茎を放置すると発生源となるので除去する。

●タイワンツチイナゴ（セスジツチイナゴ）

被害

幼虫や成虫がサトウキビの葉を集団で食害し、畑一面が丸坊主になるような被害を与える。干ばつが続く年に大発生する傾向がある。年1世代で、土中の卵から4～6月に幼虫が孵化する。



成虫



幼虫

防除法

若齢幼虫の時期に防除する。萎凋した葉を好むため、かん水施設の利用は被害回避に結びつく。雑草が生息場所となるため除草に努める。

農薬名	使用量及び希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
スミチオン乳剤	1000倍	収穫45日前まで	4回以内	散布
スミバッサ乳剤	1000倍	収穫45日前まで	4回以内	散布
ダイアジノン乳剤40	800～1000倍	収穫90日前まで	2回以内	散布
スミバッサ粉剤	3～4kg/10a	収穫45日前まで	4回以内	散布
スミチオン粉剤2	3～4kg/10a	収穫45日前まで	4回以内	散布

●カンシャワタアブラムシ

被害

特に夏植畑で3～5月に発生が多く、また秋にも発生がみられる。大発生すると、すす病を併発し、著しく生育を阻害する。



コロニー



被害

防除法

発生初期に乳剤または粉剤を散布し防除する。

農薬名	使用量及び希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
スミチオン乳剤	1000倍	収穫 45 日前まで	4 回以内	散布
スミバツサ乳剤	1000倍	収穫 45 日前まで	4 回以内	散布
ダイアジノン乳剤40	800~1000倍	収穫 90 日前まで	2 回以内	散布
スミバツサ粉剤	3~4kg/10a	収穫 45 日前まで	4 回以内	散布
スミチオン粉剤 2	3~4kg/10a	収穫 45 日前まで	4 回以内	散布

●黒穂病

被害

罹病茎は細く、丈が高くなり、新葉部に黒い鞭状体が形成される。発生は4月頃から見られ、6～7月に多くなる。

防除法

罹病茎は早めに抜き取り処分する。発病畑やその隣接畑から採苗しない。多発地域では黒穂病抵抗性品種に更新する。薬剤による種苗消毒を行う。



被害茎

農薬名	使用量及び希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
バイレトン水和剤25	100倍	植付前	2回以内 (種苗浸漬は1回)	種苗浸漬 (1～10分間)
ベンレートT水和剤20	20倍	植付前	1回	10分間種苗浸漬

○野そ

被害

さとうきびに被害を与える野そはクマネズミ、オキナワハツカネズミ等いるが、特にクマネズミの被害が大きく、さとうきびの糖度が増す秋から収穫時期に被害が多い。



倒伏した茎に被害が多い



クマネズミ (体長: 15 ~ 23cm)

クマネズミ:繁殖は妊娠期間 21 日、産子数は 4 頭~6 頭で、生まれた子供は約 3 ~ 4 ヶ月で成獣 (繁殖可能) となる。寿命は理想的環境で約 3 年、平均では、1 ~ 2 年間

防除法

野その駆除に当たっては、地域が一体となった組織的な取り組みが大切であり、雑草防除などにより野その生息しにくい環境作りに重点をおき、その上で薬剤を利用する。

農薬名	使用量及び希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
ヤソチオン	200~300g/10a	—	—	野その通路に配置する ヘリコプターによる防除 所定量を空中散布する
クマリン	300~600g/10a	—	—	野その出没する場所へ配置する
ネズコ粒剤	250~500g/10a	—	—	野その出没する場所へ配置する

さとうきび 病害虫登録農薬一覧表

注：この一覧は平成22年1月15日現在のものです。

使用する際には最新の登録内容を必ず確認して下さい。

(殺菌剤・殺虫剤)

農薬商品名	病害虫名 (一般名)	適正使用基準		ア オ ド ウ ガ ネ	イ ナ ゴ 類	イ ワ サ キ ク サ ゼ ミ	オ キ ナ ワ カ ン シ ャ ク シ コ メ ツ キ	カ ン シ ャ コ バ ネ ナ ガ カ メ ム シ	カ ン シ ャ ワ タ ア ブ ラ ム シ	ク サ ゼ ミ	コ ガ ネ ム シ 類	黒 穂 病	根 腐 病	サ キ シ マ カ ン シ ャ ク シ コ メ ツ キ	タ カ ラ マ ル カ イ ガ ラ ム シ	メ イ チ ユ ウ 類	ハ リ ガ ネ ム シ 類	
		使用時期	回数															
スミバッサ乳剤	BPMC・MEP乳剤	収穫45日前まで	4		セ*	○*		○	○								○	
スミバッサ粉剤*	BPMC・MEP粉剤	収穫45日前まで	4		セ*	幼成*		○	○	○*							○	
バッサ乳剤*	BPMC乳剤	収穫30日前まで	4			○*		○	○*	○*							○	
ディプテレックス乳剤*	DEP乳剤	収穫1週間前まで	2														○	
ディプテレックス粉剤*	DEP粉剤	収穫1週間前まで	2														○	
スミチオン乳剤*	MEP乳剤	収穫45日前まで	4		セ*	○*		○	○*								○	
スミチオン粉剤2	MEP粉剤	収穫45日前まで	4		セ			○	○*	幼成*							○	
スミチオン微粒剤F	MEP粉粒剤	収穫45日前まで	4					○										
バイジット粒剤	MPP乳剤	植付200日前まで	2	幼														ハ
バイジット粉剤*	MPP粒剤	植付時	2															ハ
		収穫時及び収穫200日前まで		幼														
カルホス乳剤	イソキサチオン乳剤	(種苗)植付前	1															
		夏季生育期まで	3	幼														
TD粒剤	エチルチオメトン粒剤	植付時	1															○
ダイシストン粒剤	エチルチオメトン粒剤	植付時	1															ハ
オキメラノール	オキメラノール剤	成虫発生初期～発生終期まで	—				成											
アドバンテージS粒剤	カルボスルフファン粒剤	植付時・培土時	1														○	○
		培土時	1								幼							
アドバンテージ粒剤	カルボスルフファン粒剤	植付時・培土時	1								幼						○	ハ
ガゼット粒剤	カルボスルフファン粒剤	植付時・培土時	1								幼						○	ハ

農薬商品名	病害虫名 (一般名)	適正使用基準		アオドウガネ	イナゴ類	イワサキクサゼミ	オキナワカンシヤクシコメツキ	カンシヤコバネナガカメムシ	カンシヤワタアブラムシ	クサゼミ	コガネムシ類	黒穂病	根腐病	サキシマカンシヤクシコメツキ	タカラマルカイガラムシ	メイチュウ類	ハリガネムシ類
		使用時期	回数														
ダースバン粒剤	クロルピリホス粒剤	植付時	1														○
サキメラノコール	サキメラノルア剤	成虫発生初期～発生終期まで	—											成			
ジメトエート乳剤*	ジメトエート乳剤	収穫21日前まで	4						○						○		
オンダイア粒剤	ダイアジノン・ベンフラカルブ粒剤	植付時	1								幼						ハ
		発芽揃期														○	
ダイアジノン乳剤40*	ダイアジノン乳剤	収穫90日前まで	2		セ*	○*		○	○	○*					○*	○*	
ダイアジノン粒剤5	ダイアジノン粒剤	定植時	2														ハ
ベンレートT水和剤20	チウラム・ベノミル水和剤	植付前	1									○					
フォース粒剤	テフルトリン粒剤	植付時	1														○
バイレトン水和剤25	トリアジメホン水和剤	植付時	2									○					
		収穫75日前まで										○					
タチガレーース粉剤	ヒドロキシイソキサゾールメタラキシル粉剤	植付時	1										○				
トクチオン乳剤	プロチオホス乳剤	収穫90日前まで	2	○													○
トクチオン細粒剤F	プロチオホス粉粒剤	植付時	1														○
		生育期(収穫90日前まで)	2														○
TDエース粒剤	イソキサチオン粒剤	植付時	1														○
プリンスバイト	フィプロニル粒剤	植付時・培土時	1	幼												カ	○
オンコル粒剤5	ベンフラカブル粒剤	生育期	1													○ *1	
		植付時	1													○	○

セ：セスジツチイナゴ 幼：幼虫 成：成虫 ハ：ハリガネムシ カ：カンシヤシンクイハマキ
*：メーカーにより登録内容が異なる *1：分けつ期まで

さとうきび 病害虫登録農薬一覧表

注：この一覧は平成22年1月15日現在のものです。使用する際には最新の登録内容を必ず確認してください。
(殺鼠剤)

農薬商品名 (一般名)	病害虫名	適正使用基準		野 ソ
		使用時期	回数	
サンケイクマリン	ワルファリン	-	-	○
ネズコ粒剤	クロロファシノン	-	-	○
ヤソチオン	ダイファシン系粒剤	200~300g/10a	-	○

さとうきびに適要のある除草剤一覧表(1)

注：この一覧は平成22年1月15日現在のものです。使用する際には最新の登録内容を必ず確認してください。

農薬商品名 (一般名)	適用雑草名	適正使用基準		回数	一年生雑草	広葉雑草	畑地一年生雑草	多年生雑草	ムラサキカタバミ	畑地一年生広葉雑草	畑地多年生広葉雑草	一年生広葉雑草	ハマスゲ
		使用時期	回数										
2,4-D「石原」アミン塩	2,4-PA液剤	植付後又は株出管理後30日以降雑草生育期(草丈30cm以下)但し収穫90日前まで	2							○	○		
カーメックス-D	DCMU水和剤	植付覆土後又は培土後	1	○									
		雑草生育期(草丈15cm以下)但し90日前まで	2		○								
DCMU水和剤	DCMU水和剤	植付覆土後又は培土後	1			○							
アージラン液剤	アシュラム液剤	雑草生育初期(草丈10~15cm)但し植付後又は株出管理後3週間頃まで	2	○			○						
イソキシル粒剤1.0	イソウロン粒剤	植付後~発芽前	1			○	○						
		排土後又は中排後				○	○						
シャドー水和剤	ハロスルフロンメチル水和剤	一年生広葉雑草3~5葉期(さとうきび生育初期)但し、収穫90日前まで	2									○	
		ハマスゲ3~5葉期 但し、収穫90日前まで											○
センコル水和剤	メトリブジン水和剤	植付直後~植付45日後まで(雑草2葉期まで)	1			○	○						
		植付直後~収穫30日前まで(雑草2葉期まで)				○	○						
		萌芽45日後まで(雑草2葉期まで)				○	○						
		収穫30日前まで(雑草2葉期まで)				○	○						
ラウンドアップマックスロード	グリホサートカリウム塩液剤	耕起前又は植付前まで(雑草生育期)	1	○			○						
		収穫60日前まで(雑草生育期:畦間処理)(但し、仮茎長1.5m以上)		○			○						

さとうきびに適要のある除草剤一覧表（2）

注：この一覧は平成22年1月15日現在のものです。使用する際には最新の登録内容を必ず確認してください。

農薬商品名	適用雑草名 (一般名)	適正使用基準		回数	一年生雑草	広葉雑草	畑地一年生雑草	多年生雑草	ムラサキカタバミ	畑地一年生広葉雑草	畑地多年生広葉雑草	一年生広葉雑草	ハマスゲ
		使用時期											
コンパカレール液剤	グリホサートイソプロピルアミン塩液剤	収穫30日前まで（雑草生育期）		1	○			○					
タッチダウンiQ	グリホサートカリウム塩液剤	雑草生育期 但し、収穫7日前まで		2	○			○					
ラウンドアップマックスロード	グリホサートカリウム塩液剤	収穫60日前まで（雑草生育期）		1	○			○					

農薬の適正使用について



安全にさとうきびを作るために農薬は以下のことを守り正しく使用しましょう

農作物等に農薬を使用する場合は、次の事項(農薬使用基準)を守らなければなりません。

- 1) その農薬に適用する作物(その農薬が使用できる作物)だけに使用する
- 2) その作物に対して決められた使用量、濃度(希釈倍数)を守る
- 3) 使用する時期(散布してから収穫できるまでの日数)を守る
- 4) 総使用回数を守る

※農薬取締法により上記の使用基準を守ることが義務付けられており、違反して農薬を使用し、その作物を食用及び飼料用として供した場合は、**最高で3年間の懲役**または**100万円以下の罰金**が科せられます。

農薬使用の際に守るべきことはすべてラベルに表示されていますので、**ラベルをよく読んで**正しく使用しましょう!!

また、農産物の安全を証明するために、**いつ、どこで、どんな農薬を、どれだけ使用したのか、**記帳しておきましょう。

※農薬とは、病虫害や雑草による農作物の被害を防いだり、農作物の成長を調節したりするために使用される薬剤で、殺虫剤、殺菌剤、除草剤、植物成長調整剤(ホルモン剤)等のことです。



適用害虫と使用方法(例)

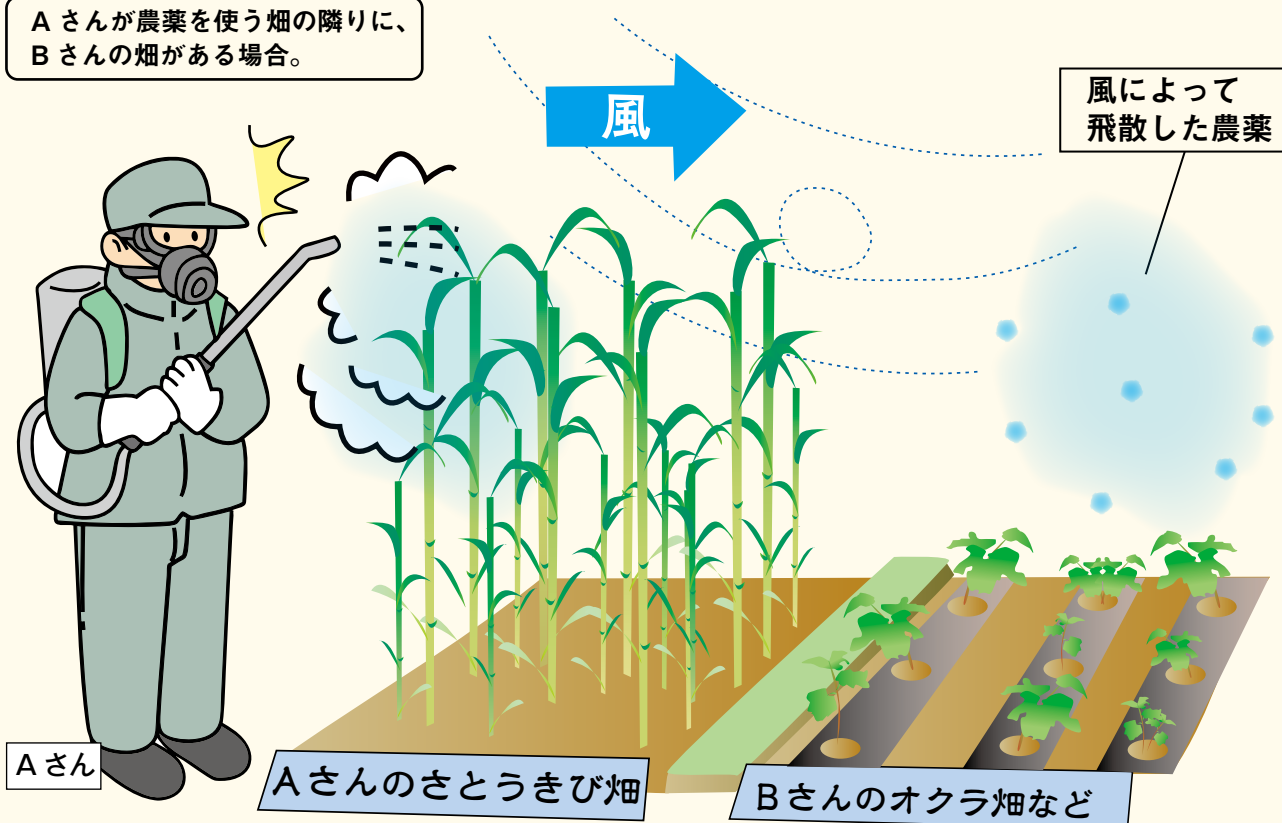
作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用時期 ※1	総使用回数 ※2
さとうきび	メイチュウ類	1,000	収穫 45日 前まで	2

※1 収穫前の農薬散布できる期限を示す。

※2 本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

農薬を散布する時は、近隣の畑の作

Aさんが農薬を使う畑の隣りに、
Bさんの畑がある場合。



<農薬の飛散を防止するためには>



- ☆風の強い日は散布を控えましょう
- ☆飛散防止カバーやノズルを使いましょう
- ☆畑の境界にネットやカバーを張りましょう

お互い周辺に思いやって気持ちよく
さとうきびづくりを続けましょう

物に飛散しないよう気をつけましょう

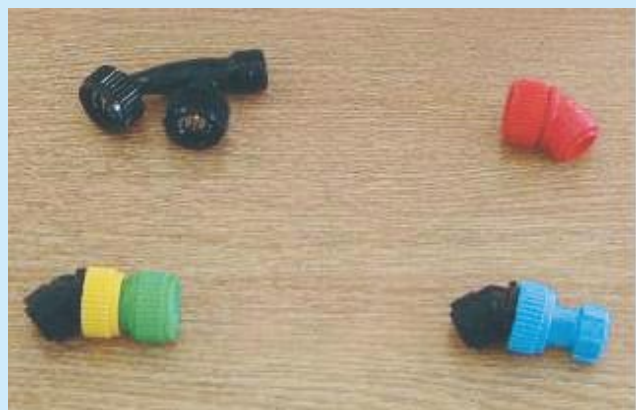
☆農薬が、近隣の作物に飛散した場合、残留農薬が検出される可能性が高く、さらに除草剤の場合は、作物を枯らしたり生育不良をおこさせ問題になります

例えば、Aさんがさとうきびに散布した農薬が、Bさんのオクラに登録（適用）がない場合

Bさんは、オクラの出荷停止や回収等が求められます。



飛散防止カバー



飛散防止ノズル

写真提供：(株) 沖縄クボタ



問い合わせ先

沖縄県糖業振興協会
TEL098-882-6400 FAX098-882-6402

沖縄県農業研究センター病虫管理技術開発班
TEL098-840-8504 FAX098-840-8510

沖縄県農業協同組合資材部
TEL098-862-5133 FAX098-941-7356